

無加温パイプハウスを利用した アスパラガス長期取り栽培2年株における 早春季の立茎までの適正収穫量

福島県農業試験場 会津地域研究支場
平成13～14年度福島県農業試験場試験成績概要
分類コード 03-35-18000000

部門名 野菜－アスパラガス－作型・栽培型
担当者 浅沼 顕

I 新技術の解説

1 要旨

無加温二重被覆パイプハウスを利用したアスパラガス長期どり栽培において、早春季の収穫過多は、立茎すべき若茎の発生数不足や欠株の発生を引き起こし、夏秋季収穫量減少による年間の収穫量の減少、さらには翌年の収穫量の減少につながる。

そこで、安定した収穫を得るための2年株の立茎開始までの収穫量の適正値を明らかにした。

- (1) アスパラガス長期どり栽培の2年目の立茎までの収穫量は、20～30kg/aが適当である。40kg/aまで収穫すると夏秋季の収穫量がやや低下するとともに、GI(生育量指数)の低下に示されるように立茎すべき若茎が弱勢化する。(図1、表1)
- (2) 早春季に20～30kg/aの収穫量を得るまでの期間は7～10日間である。

2 期待される効果

アスパラガスの無加温パイプハウスを利用した長期どり栽培において、2年株の安定生産のための管理指標となる。

3 適用範囲

無加温パイプハウスを利用したアスパラガスの長期取り作型の2年株

4 普及上の留意点

1年目の管理を適切に行い、良好な生育を確保する。

II 具体的データ等

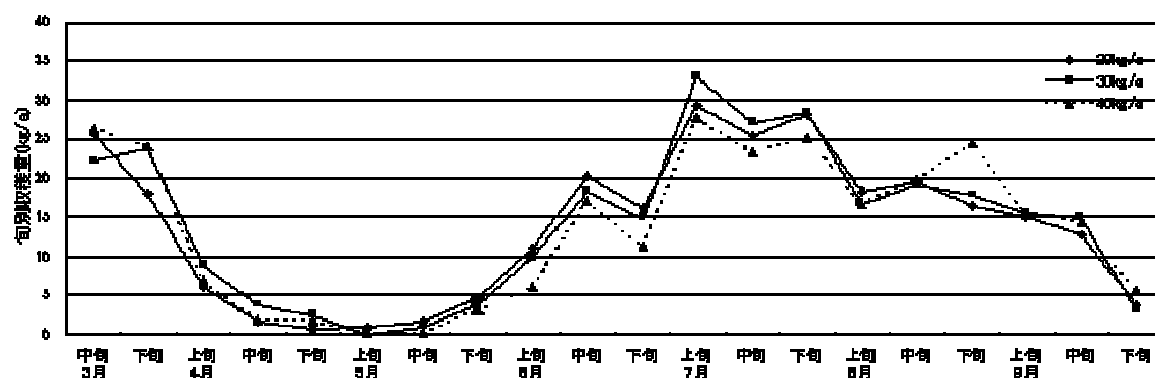


図1 アスパラガス立基までの収穫量別の旬別収穫量(S級以上) (2002)

表1刈り払い時の生育量

No	立基までの 平均茎径 20cm茎乾燥重 推定GI		
	収穫量 (mm)	(g/株)	
1	20kg/a	13.1	31.7 2448
2	30kg/a	13.0	31.5 2434
3	40kg/a	12.9	28.7 2250

注)ウェルカム2～3年目の推定GIの算出は、20cm茎乾燥重から次の式で得た。

$$y = 65.943x + 357.11 \quad R^2 = 0.8696 \quad (1997 \text{ 福島農試 園田})$$

Ⅲ その他

1 執筆者

浅沼 顕・高橋 徹

2 主な参考文献・資料

なし